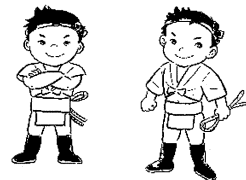


こどもの命が輝く 平和な未来の為に  
～紡いできた保育の実践と運動の歩みをこれからも～

## 九州合研ニュース No.5



第50回九州保育団体合同研究集会 福岡実行委員会

# 全日程が終了しました！



11日に残りの11の分科会が行われ、大きなトラブルもなく全日程が終了することができました。初めてのオンライン形式での九州合研でした。たくさんの課題がありましたが、みんなで力が合わせて乗り越えることができました。コロナ禍でも新たなつながりができ、新しい形での九州合研ができたことに喜びと嬉しさでいっぱいです。九州各地の皆様にご会場でお会いできなかったのが唯一の心残りではありますが、いつの日か対面での集会ができることを信じて、九州合研の灯を消すことなく学びをつなげていきましょう！今回、九州合研に関わって頂いた皆様、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。



## ★分科会感想（11日開催分）★



### 【1・2歳児保育】

- 他の園の様子や色々な援助方法を知ることができました。これからの保育に生かしていきたいと思っています。(福岡県 保育士)
- 子どもの気持ちになって考え、食べたいと思えるまで待つ、満足するまで遊び込む、安心感を持てるように側に寄り添う等、余裕のある丁寧な声掛けや関わりが素敵な実践でした。(福岡県 保育士)

### 【4・5歳児保育】

- 提案者の方の子どもたちと一緒に今しかできないことを経験する(様々な経験のお話を聞いてうらやましかったです)という取り組みがとても素晴らしいと感じました。そのような経験は私の園ではなかなかできないですが、できることを先生方と一緒に見つけていきたいと思いました。グループ討議では(4歳児担任4名、5歳児担任1名の5名)3つの柱に沿って話をさせていただきました。その中で「子どもたちの得意なことを見つけ一人ひとりが輝ける場面を作ること」や「子どもの自信につながる言葉かけを意識すること」や「みんなが認めあえる集団を作りたい」など、うんうんとうなずきながら聞くことが多く、皆さん同じような考えや悩みを持っているんだと感じました。また今取り組んでいる運動会の話やリーダー決めの話では色々なお話が聞けてとても参考になりました。最後に草場先生の「答えは一つではない」という言葉がとても心に残りました。研修を終えて、一人ひとりの子どもとしっかり向き合い気持ちに寄り添っていくことの大切さを改めて感じました。今日学んだことをこれからの保育に繋げていきたいと思っています。(福岡県 保育士)
- 提案は、どれも特色のある保育をされていて、聴いているだけでワクワクしました。運営委員の先生がおっしゃった。ゴールはひとつでも方法はたくさんあり！その沢山の手法や考え方を聞けてとても楽しかったです。(宮崎県 保育士)

## 【集団づくり】

●今回集団づくり分科会に参加し、2つの提案を聞かせて頂きました。1つ目の「0歳児Hはどうして乗りかかるとか」について、最後に脇先生がおっしゃったように、私自身に知識がなく、これは集団づくりなのかと正直思いました。しかし、人に対する信頼と愛情を育てたり、相手に自分の要求を伝える力をつけたりすることが、以上児クラスになった時に友達と関わる力となることが分かり、集団づくりの0歳からの積み重ねがいかに大事か気付くことができました。「目が合わず気になるその子の人とかかわりをどうしていくか、まずは私から」と、気になる行動を流してしまわずに、その行動の本当の要求はなんなのか、丁寧に考える保育の姿勢がとても勉強になりました。2つ目の「そうだ！いいこと考えた！」について、年長さんが年少さんのことを自分たちでどうにかしようという、仲間意識が自然と育っていることがすごいと思いました。最後に脇先生がはじめの理論と結び付けてくださり、Nくん5歳の「パパって言われた」と喜ぶ姿が「他人に頼られる存在、それに応えられる自分」という所や、Uちゃんが「自分の思いをみんなが受け止めてくれる、みんなの要求を自分も受け入れる」という関係性など、集団づくりの要素が実践を通してよくわかりました。自分のクラスの子が、自分の要求を受け入れてもらう場面はあるだろうか、自分たちの手でトラブルを解決する場面は保証されているだろうか、ともう一度生活を振り返り、保育に活かしていけたらと思います。(福岡県 保育士)

●今回は、このような研究集会に参加させて頂き、ありがとうございました。私は、鹿児島県の最南端の島、与論島のこども園で働いています。保育士として働き始めて9年になりますが、毎日、保育のあり方について試行錯誤の日々です。今回の研究集会に参加し、たくさんの保育者の方々のお話を聴かせて頂き、皆さんも試行錯誤をしながら、未来のある子どものためには、どういった関わりが必要なのか、どういう支援、環境が必要なのかを日々研究しているとのことで、明日からの保育のモチベーションを高める良い機会を頂いたこと、心より感謝しております。まず、始めに玄界風の子保育園の天野先生の提案では、0歳児からの集団作りということで、育児担当制を行いつつ、愛着関係を築く中で大人との関係、お友達との関係を広げていきたい。という思いが伝わってきました。そして、クラス全体の保育者がその子に対してどうしたら良いのか。ということ話し合ってきたことが感じ取れました。HさんとHさん意外の人との関わり、二項関係はできているが、三項関係が出来ていない様な気がするという鋭い気づき、子どもの発達、思い、視線、行動に対しての違和感などから場面記録を残し、他の保育者との共有すること等からも、保育者にとっての視点、気づき、立ち止まって考えること、園全体での共通認識が大切だと感じました。コスモスこども園の井原先生の提案では、私の園では、異年齢児保育を取り入れているわけではないので、異年齢児での関わりを聞くことが出来て、異年齢児での関わることのメリットを感じる事が出来ました。3. 4. 5歳児いる中で、どの学年でも、臆することなく自分の思いを提案する姿を見て、普段からクラスで話し合いを行い、自分の発言が採用されることで、受け入れられていると感じているからこそ発言をすることが出来るのだろうか。と感じました。子どもたちにとっても、お友達に信頼されている、お友達を信頼しているという経験が人として大切な土台が形成されていくのだと思いました。子どもたち一人ひとりに自分の居場所があり、愛されていると感じることで自立をしているということをとっても感じました。保育者が「こうしたらいいよ」と答えを言うことは簡単で、時間もそんなにかかりませんが、自分たちで考えて成長をしていくことを感じたときに、日々の保育でどうしてもやらないといけないことがあり、答えを出している保育をしまっている。と反省をしました。今回は、本当に素敵な研究集会に参加させて頂きありがとうございました。

(鹿児島県 保育士)



### 【0・1・2歳児のあそびと生活】

●2回目の実践発表でドキドキしましたが、たくさんの保育士さんたちから意見や感想をいただき、日々の保育の悩みも共有できて、改めて明日からの保育頑張ろうと思えました。コロナ禍でしたが、オンラインでも参加できてよかったです！ありがとうございました。（福岡県 保育士）

### 【3・4・5歳児のあそびと生活】

●2つの提案から、他の園での遊びや子どもたちが経験していることなどを知る機会になりました。私自身、社会人一年目ということで分からないことが多くある中ではあるのですが、子どもたちに豊かな体験をしてもらうために保育者が知恵を振り絞って貴重な経験となるような活動をもってきたり、子どもとの関わりだけでなく、保護者との関わり方など多くのヒントをもらえるいい機会となりました。3・4・5歳児ならではの遊びの幅を知ることができ、具体的にどのように準備していけばいいかなども学ぶことができ、自身の保育の質を高めていきたいなと思いました。（鹿児島県 保育士）

### 【子どもの生活と音楽（うた・リズム表現）】

●分科会に参加し一番感じたことは、わかくさ園保育所もやまなみ子ども園も音楽が生活と共にあり子どもたちがいきいきとのびのびと楽しそうに歌っていました。音を楽しむまさに音楽だなと感じました。たんぼぼ保育園も毎朝全園児で朝うたを歌い楽しんでいます。生活のなかでも口ずさむ子たちもいて生活と音楽がともにあるなあと感じることもあります。でもクラスでも歌をうたうと弾くことに必死になって楽しむとは程遠く、自分の技量にがっかりすることもしばしばです。そんな中、長崎県の先生の“片手だけでも子ども達と歌いたい！この歌を子どもたちに渡したい！その思いの強さがあれば子どもたちに伝わりいきいきと歌う”“肉声でもいいんだよ”という話を聞いて肩の力がふっと軽くなりました。また、やまなみ先生の音楽の引き出しをたくさんもち、必要な時取り出せるようにしておくという言葉も印象的でした。わかくさ子ども園の提案では体験したことと歌がつながっていてそれを大切にされていることが伝わってきました。そしてどう子ども達と歌を楽しむか渡していくかということを常に考えている太田先生の姿勢に自分はどうか？と振り返ることができました。やまなみ子ども園のねねちゃんとピアノの提案はねねちゃんだけでなくその周りの子ども達の成長も見えました。ねねちゃんを取り囲む子どもたちの姿が目に見えてきました。その子の好きな物、夢中になるものが今回は音楽だったけども、そこに気づいて毎日ねねちゃんに寄り添った宮本先生の温かさが伝わってきました。2つの園の提案や先生方からのまとめを伺いながら、音楽に限らず、子ども達に何を伝えたいのか何を楽しみたいのかどう寄り添っていくのか大切に、子ども達との生活をより豊かにしていきたいと思いました。ありがとうございました。お疲れさまでした。（大分県 保育士）

### 【保育政策と保育運動】

副食費がテーマとなっていました。立ち位置が違えば物の見え方も変わるので解釈の違いや認識の違いを一致させて行くのは主張し続けていくこと、何度も話し合いを重ねていくことが大事だと感じました。「園での給食は子どもの命を維持する上で重要な役割をはたす」とのご意見が出ていましたが、それこそが本質、そしてその重要な役割を果たす給食にかかる費用は当然「保育に通常必要な経費である」と認識されるべき項目だと思います。となると当然委託費の中に組み込まれるべき費用となります。保育園側だけの主張ではなく保護者や職員にも周知して大きなムーブメントを広げていくことで昨今の日本の情勢の中で経済的・育児環境的に安定しない子どもたちの命をつなぐ給食を園側が安定して提供でき、各家庭の負担も減らすことができると感じました。保育園を“子ども達の最善の利益を考慮しその福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場”とするならば国にも“緊張感をもって注視”するばかりではなく、しっかりと熟考していただき子ども達にとって実りある答えを頂きたいと思いました。（福岡県 副園長）

## 【子どもの生活と文学（絵本・劇あそび）】

### ●提案①

1. 普段の生活の中で子ども1人ひとりの行動や表情を観察して「今この子は何を感じて何を思っているのだろう」と気づいてあげられることが保育者の役割かなと思った。
2. 子どもたちの反応を見ながら、同じ絵本を読み続けることで大人が予想もしてなかった視点に気づいたり想像したりして、それが遊びにつながっていけるのは理想だなと思った。

### 提案②

1. 映像から園全体の日常生活からも見られて日々のあそびや豊かな体験を通して表現力、生きる力が育っていくことがよく伝わる提案だった。ピノキオの舞台を観たいと思った。
2. 劇あそび、劇作りの（3～5才児）の発達段階があり、その難しさとみんなで成長できた達成感を味わうことのできる喜びがあり、劇づくりや絵本は担任はもとより、職員集団の力の大きさを感じました。

「全体として」

- ・久しぶりの文学の分科会に参加して、やっぱりいいな。文学との出会いは、0才児から大切だなあと自分の中に落ちるものがありました。
- ・音声が聞きとりづらいこともあり、できたら対面での九合研を心から望むところです。お疲れさまでした。

(熊本県 園長)

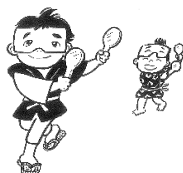
## 【地域型保育交流会】

- 今回初めての提案ということもあり、緊張しましたが参加者の方も温かく提案に関するだけでなく現場ならではの情報共有が出来、コロナ禍でなかなか交流が難しい状態でしたが有り難い時間となりました。今後もこのような意見交換や情報共有の場が保障されていけばと感じています。貴重な時間を有難うございました。

(熊本県)

## お知らせ…

### あの感動をもう一度…



開会集会・記念講演・閉会集会は9月20日（火）の  
10:00から10月31日まで配信予定！



## 講座は絶賛配信中！10月31日まで

